

社会基盤整備特集

未来を支える “究極のものづくり”

道路や河川、ダムなどの公共施設(インフラ)は、私たちの生活を維持するために欠かせない。しかし、それら公共施設をつくる現場の実情は、あまり知られていない。規模の大きさなどから「究極のものづくり」ともいわれる公共事業。その第一線(活躍する行政や民間の技術者たち)が「未来を創る社会基盤整備と目

指すべき技術者の姿」をテーマに語り合った。仕事の魅力とやりがいについて経験を交えて話し、建設分野に興味を抱く若者たちに熱いメッセージを送った。
(取材協力)兵庫県建設業育成魅力アップ協議会

現在の担当業務は。金川 本庁で県が管理する道路の新設や拡幅、バイパス整備などの事業調整、技術基準に関することを担当している。

前田 加古川市の西に位置する法華山谷川の河川工事が今の担当。2011年の台風23号で浸水被害が発生したため、県と加古川市、高砂市で治水対策を進めている。具体的には川幅の拡張や河底の掘削により、河川の断面を大きくしている。

谷口 新名神高速道路川西インターチェンジ(IC、仮称)へのアクセス道路である県道川西インター線の工事現場で、現場代理人として従事している。

西浦 赤穂郡上郡町の鞍馬川に建設している金出地ダムの現場責任者。私は伊丹市出身だが、入社以来全国のダムを渡り歩いている。これで6件目になる。

具体的な経験について。

金川 豊岡土木事務所勤務の時、国道312号バイパスや48号などの整備に関わった。完成直後の04年、豊岡で大水害があったが、これらの道路がなかったら神戸など

谷口氏 分かりやすい説明が重要



金川 正敏氏



西浦 和幸氏

金川氏 災害時の救援に道路必要

から豊岡に行くのに大きく遠回りをお願いするところだった。今年3月に「東播磨道」の1期区間5.2kmが開通した。国道2号加古川バイパス(加古川市)と国道175号(小野市)を結ぶ全長12.1kmの自動車専用道路。加古川市内の混雑や渋滞の解消・緩和が確認でき、路線バスはJR東加古川駅への乗り入れ本数が13本増えた。この東播磨道沿いには加古川医療センターや北播磨医療センターなどがあり、今後は東播磨道を使った医療連携が期待できる。

西浦氏 ダムは環境保全の効果も

が、県の宝塚土木事務所の発注による道路拡幅工事で、電柱をなくして電線を地中に埋める工事だ。ここでは地元説明会が実施できなかったため、約400世帯を1軒ずつ回って説明書を配った。通常は簡略な文章だけだが、なじみのない種類の工事のため、少しでも理解が深まるよう解説図もつけた。「分かりやすい」と喜んでくれる人もいたことが、励みになった。

西浦 金出地ダムは治水だけでなく、農業向けの利水、河川環境の保全も目的に含む。水道用水などへの利用が見込めなくなり、計画変更で規模が縮小されたという経緯がある。15年度末には工事終了の計画だが、今年9月の集中豪雨で、すでに治水効果を発揮した。

環境面では、人工湖ができるので水生生物の保護などに役立つ。地元でもダムを自然植物園のようにしようという構想がある。ダム建設は自然破壊と思われがちもあるが、環境保全の効果もあるといえる。金出地ダムではこの2年半で16000人もの見学者があり、期待の大きさを感

前田氏 住民の思い尊重し街守る



県道川西インター線の工事現場＝川西市

谷口 伊丹で現道拡幅工事を担当したとき、自然環境が変わることに住民から反発を受けたことがある。「近年に大きな水害がないのに、工事がないのか」と批判された。前田 かつて猪苗川の工事を担当したとき、自然環境が変わることに住民から反発を受けたことがある。「近年に大きな水害がないのに、工事がないのか」と批判された。



谷口 哲也氏

谷口氏 民間の経験を生かしたい

印象に残っている地域の声を担当した時のことだ。道路を利用しながら拡幅するという難工事だが、住民からその道路が老朽化して「車の通行時に騒音がひどい」という苦情があった。工費の関係で工事完了まで我慢してほしいと行政の担当者に相談したが、行政の担当者に相談したところ「ごまかすことはできない」と改修を決定してくれた。少数の声を大切にすることを覚えた。少数の声を大切にすることを覚えた。少数の声を大切にすることを覚えた。



前田 直昭氏

西浦氏 完成への期待の声 励みに

金川 都市部は車の渋滞が課題だったり、自転車道や歩行者空間が必要とされたりしている。地方部は道路整備が不足している。道路というの

西浦 20年以上前に担当した関東のダムが地域の観光地となっている。散策する人が多く、ダムを環境を楽しんでいる人を見ることが多くなる。金出地ダムでも、骨材となる石に地元の子どものメッセージを書いてくれた。「早く立派なダムをつくって下さい」という言葉が多く、励みになった。

金川氏 「社会に役立つ仕事」実感

「目指すべき技術者像とは。金川 技術力は必要だが、公共工事は単に目的物をつくるのではなく、つくり手としての思いが大事。利用する人のこと、便利や安全などへの配慮が必要。前田 土木技術者には必要な要素が4点ある。「予測」を踏まえた「展開」、「幅広い知識」、そして「説明責任(アカウンタビリティ)」。土木工事は自然が相手だから、掘削したら水が出たとか、山が崩れてきたといった不測の事態が起こりうる。この不測を予測し、どのように事態を展開させるかが必要で、対応するには幅広い知識が不可欠だ。説明責任とは、分かりにくい専門用語をかみ砕き、地元住民に分かりやすく説明する努力が必要ということ。

前田氏 スケールが大きく魅力的

「若者に一言。金川 社会を支える基盤づくりは重要な仕事。やりがいがある。仕事が社会に役立つことを実感できる。若い時は思うような仕事はなかなかできないかもしれないが、続けるうちにおもしろさや分ると思う。前田 造るもののスケールがとにかく大きいのが魅力だ。規模が大きいかから、地域への貢献が大きいといえる。土木作業は、現場が変われば施工方法も変わる。日々変化があり飽きらない仕事だ。谷口 土木の極みは人。あのドラマで「物づくりがゼネコンマンの原点だ」というセリフがあった。仕事をしながら「誰のため」「何のため」と常に考え続けることで、前進できると思う。西浦 構造物は社会基盤として長く残り、地に根を張りやすい。責任も重いが達成感も大きい。ダムが完成して少しづつ水がたまる様子をながめていると、じわじわと感動がこみ上る。本当にやりがいがあるなと思えることがある。



建設中の金出地ダム＝上郡町